

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300573		
法人名	医療法人社団 明星会		
事業所名	グループホーム 明星		
所在地	岐阜県加茂郡富加町夕田373番地		
自己評価作成日	平成22年12月21日	評価結果市町村受理日	平成23年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171300573&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立ち上げから9年が経過した今日、情緒豊かな地域の皆様の見守りの中、ご利用者様中心のぬくもりのある、心地よいホームとなり、寄り集まってくださるようになりました。又職員、ご家族様も一体となって支えていただける喜びを実感し、昔の家族を思わせる“はぶり”の宿(通称)です。緑豊かな自然の中で認知症であっても互いに支えあい、喜び合い、笑いのあるこの地域にふさわしいホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中、法人の老人保健施設が事業所のすぐ近くに併設され、利用者との相互交流が図られている。利用者は、地域の人々に温かく支え見守られ、認知症介護の経験豊かな管理者や職員による質の高いサービスが提供されている。家族やボランティア、行政等とも協力関係を築きながら、地域密着にふさわしい事業運営を行っている。利用者は、家族や馴染みの人たちとの関係を継続しながら、美味しい食事を楽しんだり、喜びのある穏やかな生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着したホームの理念を理解して日々の実践につなげている。ミーティング時に皆で唱和し誇りに思い役立っている。	管理者と職員が共に作り上げた理念「その人らしさ、安心と喜び、優しさとぬくもり、地域・家族の結びつきを大切に」をミーティング時に唱和し、仕事への情熱と誇りを持って、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入したことにより、より一層地域との交流が深まってきている。地域の皆様にもいつも暖かく見守っていただいている事を痛感できるのは本当にあり難い。	地域のボランティアが運営推進会議に参加し、ホームの協力者になっている。近隣の人が、漬物作りを教えに来たり、自治会の広報より情報を受け、イベント等に積極的に出かける等、相互交流を通じて地域と自然につながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内にて救命救急の勉強会に地域の方々を招き行う等の計画を立てたが、実行に移す事が出来なかった。思いはあるが出来ない事が多い。ただ地域住民との盛んな交流の中で、認知症への理解が広まってきている事は確かだと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容・活動報告を中心として皆様より意見を頂、サービス向上へとつなげている。又メンバーが変わる事により違った視点からの意見が聞け、それをサービス向上へと活かす事ができている。	地域の役員、行政、家族、利用者等に加え、地域のボランティアも参加し、2ヶ月に1回開催している。利用者の重度化等ホームの現状を報告し、防災訓練への参加協力等、地域の理解や協力を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村関係者の皆様とは情報協力、依頼等良い関係に結びついている。こちらから伺うように心がけて情報交換、実情等常に協力関係が築かれている。	運営推進会議への出席依頼に、利用者と共に役場へ出向いたり、町の産業祭にホームの紹介コーナーが用意される等、安定した協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について皆が研修を受けて正しく理解し取り組んでいる。常に何が拘束にあたるか話し合っている。玄関施錠は夜間のみ行い日中は施錠をしない。やむ得ず数時間する場合は玄関に施錠のお知らせをしている。	職員は、「身体拘束とは」、「拘束は何故してはいけないのか」等について学習し、理解している。特に言葉の拘束については、常にミーティングや申し送り等の中で振り返り、確認合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について皆が研修をうけ理解している。一人一人の尊厳を大切にする心を養う事で防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護の研修に参加し、又法人内の勉強会に参加、伝達講習を受け、2、3度と受講するたびに良くなってきた。現在必要性があると思われる方は無いが、活用できる体制はできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は十分に行い、家族からの意見等はしっかり受け止め、納得されるまでお話しする。お互いに言いにくい事、聞きにくい点は最後のほうに、形式ばらず楽しく会話が進むように、相手の気持ちを受け入れています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族様の意見は大切にしたい。家族との関係は、職員が「利用者を取り巻くご家族の方々がいい人ばかりなのでこのホームに反映されている」ことを思い、喜びあっている。	運営推進会議、面会時の聴き取り、意見箱の設置等、家族の意見の把握に努めている。家族からは、夜勤体制についての意見も出ており、安心・安全に配慮した運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	些細な事もお互いが意見を出せるよう場作りに努めている。「報、連、相」ノートを皆で共有している。又ミーティング時に意見を出し合い、検討、解決する方法も活かしている。	職員の意見の反映については、検討・試行・評価を重ね、最終的に方法を決定するというサイクルで行われている。現在は、ごみ処理の課題に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間について所定時間内に終わるように努力している。働きやすい職場として皆さんの努力は認めている。各自の良い点を見つけ目にあまる所は改善できている。給料水準は町職に準じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チームワークも整い、助け合い精神がすぐ育てられている。法人内外の研修も順次参加できている。伝達講習、県社協、GH協議会等		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会、町ケア会議、研修等で交流する機会ができています。他グループホームへの訪問活動は盛んではないが細く長く続けて行く事を大切にしてゆきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人一人の立場を考え「ちゃんとそばにいて見守っているからね。困った事は無いですか？」等の声掛けをし、共に寄り添いながらご本人と一緒に過ごしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めにご家族の思い・困っている事を聞かせてもらう。今までの経験の中から事例を出させてもらったりして、安心感、会話の中の雰囲気づくりを明るくし要望に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供開始前に色々な情報(包括支援センター、居宅介護支援事業所等から)を頂、家族の思いを引き出し、必要とする支援につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らす」という理念は変えない。職員全員が同じ意識で関わっている。暮らしの中で母・嫁・姉・妹・娘の関係ができています。いつも穏やかな大家族のイメージを保っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支えあうという関係が家族、職員の間で築かれている。ご本人と家族の絆を大切に良い関係の下で暮らしている。家族も自分の親だけでなく他の利用者を大切にされ、職員、家族が一体となって利用者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	田舎町の為外に出ればなじみの人に出会える事も多い。(外食・公民館へ清掃に、イベント、かかりつけ医等)ホームで行われるイベントに馴染みの方を招待したり、外食と一緒に出かけたり、馴染みの方の部落に出かけたりと今までの関係が途切れない努力を常に行っている。	地域で暮らしてきた利用者が多く、馴染みの人達と出会う場所に出かけたり、招いたりしている。家族会は年4回、ホームの行事に合わせて実施し、利用者や家族同士の継続的な関係づくりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を把握し、その人らしさを生かしている。利用者間の調整もしながら楽しく笑いのある家庭作りに勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてもサービス利用中の関係を大切にし、必要に応じて相談・援助に努めている。(入院中のお見舞い、訪問、様子伺いの電話など) 又入所希望待機者にはこちらの情報提供、先方の様子伺い等をしてしながら交流を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その人らしく生活する」を理念に掲げ、本人の思いを受け止め、認知症を理解し、生活の中に生かしている。困難な場合は家族を含め皆で検討し方法を講じている。	職員はゆったりとした気持ちで、利用者に寄り添い、ふれあい、言葉や表情、仕草等から行きたい所や、したい事などを把握するよう努めている。把握の困難な人は、家族からそれとなく話を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人と信頼関係を築き、その人の生活歴・馴染みの暮らし方を把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の生活歴を基に、暮らしの中にプランと共に折込み実践している。一日の生活の中にそれぞれの特技が生かされ、生きる支え、楽しみへとつながっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族を交え見直ししながら、要望を聞き、意見を出し合うことにより本人にとってより良い暮らしへとつなげるような介護計画を作成している。	職員は、日頃の関わりの中で、本人・家族の意向を把握している。本人・家族に変化があれば、医療関係者の意見や、職員の意見を基に、個々の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ふとしたつづやきを大切にし、記録に残すことにより気付かされることがある。職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活用し実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化はすすめていない。		

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この地で暮らせる喜びは、本人だけでなく家族・地域の人々も支えあう喜びを訴えてくださる。近場に豊富にある地域資源を活用し、このホームならではの暮らしができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は情報交換を密に行い、本人の安心感と体調管理の支援につなげている。家族の希望でかかりつけ医が変わっても6ヶ月に一度は検査を含め受診いただけている。	利用者の意向と健康を考え、事業所は、個々の「かかりつけ医」と信頼関係を大切に、受診支援等も柔軟に行う等、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所の医師、看護師に相談し適切な助言をいただけている。又併設の老健施設の看護師に相談、応援の協力が依頼でき安心できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日常の状態を情報として病院関係者に伝え治療に役立ててもらうように心がけている。又入院されたとき職員が顔をだす事により、本人・ご家族等の関係者が安心され早期退院へと結びつくよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については入居時にお話している。いくつかの選択肢を提示しできる事を説明しながら方針を決めている。家族は「最期まで」と希望されている方が多い。	利用者の入居期間が長くなり、重度化も進み終末期ケアを望む家族が多いが、現段階では看取りは行わない方針である。	終末期への対応は、高齢化の重要課題と認識しており、事業所の力量や医師との連携を含め、検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにより対応している。11月「急変時の対応」「救命救急講習会」を消防署職員により受講する等、実践力を身につけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月9日には訓練日を設け実践し記録に残している。年2回行う母体訓練の他、単独で夜間訓練を全職員、地域の協力体制と共に実施し良い結果に結びつき、今後も継続してゆく方針である。	近くのキャンプ場が地域の避難所になっており、地域の人達と共に防災訓練を行っている。夜間訓練を実施したところ、地域の人がいち早くかけつけ、協力してくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者の人格を尊重した言葉掛けが常にできている。	利用者の生活歴を把握し、一人ひとりの利用者に応じた言葉かけをする等、尊厳を無視しないようにしている。利用者の人権を守る意識を職員間で、徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にゆったりとした気持ちで時間をかけ思いや希望を表現できるように努めている。又今までの経験からしてスキミングが何より大切である事がわかり、日常的に利用者職員が寄りそい触れ合うことにより自己決定できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中に自ら決定権が定着してきた。ある程度職員側の声掛けにより運動不足を解消する為職員と一緒に散歩、レクを全体で楽しむなど工夫実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年を重ねても女らしさを忘れないように援助している。鏡を見る、髪をとく(なるべく自分で)マニキュア等にて気分も変わる。日常的に個々にあった装いで暮らしにメリハリをつけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	長年の味が染み付いているせいか「ここの味が一番や」と言われる。米も地元米で皆に親しんで食べてもらえる。立っての作業は限界があり、座ってできるお膳、お椀拭き、野菜の皮むき、野菜切り等はみなさんおしゃべりしながら生き生きと出来る。	利用者の力量に合わせ、職員と共に、食事の準備を手伝っている。彩り・味付け・盛り付け等に配慮したおいしい食事を、職員と共に楽しい雰囲気の中で味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昨年カロリー計算をしたことにより一日の摂取カロリーが把握できている。栄養バランスを検討し、水分量と共に個々に応じた摂取量が確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは完璧に行っている。利用者の能力に合わせ、見守り、介助により口腔内の清潔保持に努めている。		

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンが把握できており、チェック表により失禁を減らす支援をしている。その都度ホットタオルで清拭介助をする事により清潔保持に配慮している。又できるだけ紙パンツは使用せず布パンツ・パット対応にてオムツ代金を減らすようにしてる。	個々の排泄パターンを把握し、排泄リズムに合わせてトイレに誘導している。職員が、尿意を素早く察知して、失禁が少なく、オムツの使用量を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、自家製のお茶(手作りお茶・どくだみ、ゴーヤ入り)、ジュース(しそ、梅など)、食物繊維(自家製野菜)運動(個々に合わせた歩行訓練、体操など)により便秘の改善、予防に取り組んでおりその成果が出ており、便秘薬服用の方はいない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決めている。早く入りたい方、遅いほうが好まれる方は希望にそうようしている。又季節に合わせて入浴(菖蒲、ヨモギ、ゆず湯など)を行い、楽しい入浴ができ喜んでいただいている。	隔日の入浴支援が基本となっており、利用者の希望に合わせた時間帯で、一人ずつ、ゆったりと入浴できるよう支援している。ヨモギや菖蒲等季節の風物も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の方は30分くらい1、2回ベッドにて休まれる。昼間から横になられていた習慣がない為お昼寝をされる方は少ないが体調に合わせて1、2時間休んでいただいている。暖かい飲み物・安心できる声掛けにより夜間は良眠できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	大切な薬であるが故に全職員服用している薬の理解をし、症状の変化の確認に努めている。薬が変更された場合は申し送りにより皆に報じる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何回も繰り返し昔はなしと現在が入り混じり、自分の歩まれた道を話される。職員のあいち等で盛り上がり、良い気分転換になっている。皆で笑いのある暮らしを実践している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力のみならず、最近では地域のボランティア、近隣の義姉妹の方等の外出支援を頂、全員で希望される所に外出できている。又日常的には外食・喫茶店・ドライブ(紅葉、花見等)外出支援を頻繁に行っている。又個人的に実家への仏壇参り、墓参り、町内の妹に会う事等も行っている。	近隣へ回覧板を渡しに職員と一緒に出かけたり、家族やボランティアの協力で、喫茶店や外食、行楽、墓参等に出かけている。外出を希望しない利用者は戸外に出て、自然の中で外気を浴びる支援をしている。	

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については家族と相談し、基本的には事務所管理である。外出場所によっては個人に持ってもらっているがお金を使うことは無駄使いと思っている方が多い。孫の面会時に小額のお小遣いを希望され応じさせてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話は自由にできる。お手紙は面会が多いので本人からは出されない。年賀状・暑中見舞いは書いてもらえるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には見慣れない物は置かない。外の景色が良く見え四季の移り変わりを感じることができる(花、鳥、柿など)窓辺には鉢植えが沢山あり愛情込めて育てている。混乱を招くような音色等は無く光、温度には配慮し、ゆったり感を作り心地よく過ごすことができている。	共用空間は明るく、冬でも程よい暖かさが保たれており、寒さに弱い観葉植物も生き生きと色鮮やかな花をつけている。一人でくつろげるソファが廊下に設置され、リビングの片隅には安全に歩行できるよう手押し車が置いてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の途中にくつろぐ場所が作ってある。ソファがあり仲間と話したり、ちょっと一服といった使用で、台所・リビングから少し離れているが、見え隠れする所に心地よさがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものが持ち込まれている。新しい家具でも今は馴染みとなり、大切に、自由に使われている。思い出の写真は大切なものであり、置き場所向き等に配慮している。	椅子や鏡、位牌、家族の写真等、利用者の思い出の物が、使いやすく、大切に置かれ、その人らしい居室環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	先ず安心して安全に日々すごしていただきたい。シルバーカーが増え、車椅子も備品として置き始め空間が狭くなってきているが、使用することで自立した生活が長く続けられる事を期待して援助させていただいている。		